

「データへの期待に立ちすくむ～モデル無き「依頼」にどう応えるのか～」

【概要】

昨今では、「データの大規模化」が進んでいる。これは、データ獲得にかかるコストが小さくなったことによる。この要因としては①アンケート調査のコストが下がっていること、②オープンデータ化の進展に伴い、行政から積極的に情報が公開されるようになったこと、③ウェブスクレイピングなどの技術革新によるもの、などがあげられる。

情報獲得のコストが小さくなった一方で、研究者は大量のデータに囲まれることになる。さらに、恐ろしいのはデータ分析の「無茶振り」である。仮説もモデルも何もなく、「データがあるから分析をして結果を出すように」との依頼を受けることがある。

データがある。しかし、モデルや仮説はない。このような無茶振りに対して、我々はどのように依頼に応えれば良いのであろうか？

本ワークショップでは、以上を踏まえて本田がオープンデータ時代における利活用を前提としたデータ提供のあり方の観点から、村舘が行政ビッグデータ

の利用経験，およびオンライン家計簿の分析などの過去の経験から議論をする。
さらに，廣瀬が会計学における，オープンデータおよび実験データの取り扱い
の観点から，後藤がビッグデータ時代における新たな経済ゲーム実験の可能性，
および「無茶振りの一例」から議論をする。さらに，コメンテータである友野
先生より行動経済学の観点から，データ取り扱いに関わる落とし穴についてコ
メントを頂戴する。

【司会・登壇】

司会：本田正美（東京工業大学環境・社会理工学院）

コメンテータ：友野典男（明治大学情報コミュニケーション学部）

登壇：本田正美（東京工業大学環境・社会理工学院）

登壇：村舘靖之（国立情報学研究所）

登壇：廣瀬喜貴（高崎商科大学短期大学部）

登壇：後藤晶（山梨英和大学人間文化学部）